

平成30年度(2018年度)

管理事業名	吹田市介護老人保健施設事業			総合計画の体系	第3章 健康で安心して暮らせるまちづくり 第2節 高齢者の暮らしを支えるまちづくり
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 4	衛生費	(項) 1	保健衛生費 (目) 17 介護老人保健施設費
部局名	福祉部	予算執行所属	高齢福祉室		
予算大事業名 施設管理事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名				
<b>事業の目的と概要</b> (1)目的 ・吹田市介護老人保健施設は、要介護の高齢者等を対象に、家庭復帰ができることを目指して看護・医学的管理のもとにおける介護、機能訓練その他必要な医療並びに日常生活の世話をを行うことを目的とした施設です。 (2)概要 ・同施設は指定管理者制度の利用料金制を導入しているため、施設の管理運営は指定管理者によって行われ、施設の大規模な修繕・工事等は市が実施します。					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
施設利用者数	人	41,700	40,476	39,517	年間利用者数
在宅復帰率	%	39.7	50.9	56.3	介護報酬算定要件における在宅復帰率(年間平均)
成果の説明	施設サービス(長期入所)、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等を提供することにより、高齢者等の健康保持及び福祉の増進につながっています。 施設利用者数で見ると、減少傾向にありますが、在宅復帰率は上昇しています。個別対応のリハビリテーションや、入所前後、退所前後の居宅等への訪問を実施することにより、施設サービス計画の策定や診療方針の決定、生活機能の具体的な改善目標を定め、退所後の生活に係る支援計画や療養上の指導をしています。それにより、入所者の居宅における生活への復帰を支援できていると評価します。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
経常収入				
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	150	250	498	248
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	202	174	180	6
経常収入 小計(a)	352	424	679	254
給与関係費	6,129	5,825	5,832	7
物件費	3,200	500	1,036	536
維持補修費	1,909	11,062	31,374	20,312
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	-	-
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	63,219	64,287	64,675	388
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	494	501	522	21
退職手当引当金繰入額	△1,030	373	450	77
支払利息	20,095	16,173	12,002	△4,170
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	94,016	98,722	115,892	17,170
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△93,665	△98,298	△115,214	△16,916
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	3,440	2,540	-	△2,540
特別収入 小計(d)	3,440	2,540	-	△2,540
特別費用				
固定資産除売却損	0	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	0	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	3,440	2,540	-	△2,540
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△90,225	△95,758	△115,214	△19,456
一般財源充当額	101,354	100,635	121,261	20,626
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	11,129	4,877	6,047	1,170

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	使用料及び賃借料 500千円 備品購入費 535千円 食糧費 1千円
維持補修費	屋上防水更新工事 28,782千円 浴槽濾過装置修繕 2,592千円
支払利息	施設建設時の償還金利子 12,002千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	352	424	679	254
行政サービス活動支出	32,466	34,594	51,303	16,710
行政サービス活動収支差額	△32,114	△34,169	△50,625	△16,455
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	6,696	-	-	-
投資活動収支差額	△6,696	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	62,544	66,466	70,636	4,170
財務活動収支差額	△62,544	△66,466	△70,636	△4,170
収支差額 合計	△101,354	△100,635	△121,261	△20,626
一般財源充当額	101,354	100,635	121,261	20,626
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動収入)寄附金499千円、行政財産目的外使用料(自動販売機)181千円 (行政サービス活動支出)維持補修費 屋上防水更新工事 28,782千円
----------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
利用者1人あたりのコスト	平成28年度	41,700人	2,254円	前年度と比較すると、経常費用が17,170円増加し、施設利用者数が959人減少したため、利用者1人あたりのコストは493円増加しました。
	平成29年度	40,476人	2,439円	
	平成30年度	39,517人	2,932円	
	平成28年度		円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	71,138	75,594	4,456
未収金	-	-	-	地方債	70,636	75,071	4,435
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	501	522	21
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	4,189,063	4,128,028	△61,035	その他流動負債	-	-	-
土地	2,748,503	2,748,503	-	固定負債	153,668	78,490	△75,179
建物・工作物	1,440,559	1,379,525	△61,035	地方債	148,243	73,172	△75,071
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	5,425	5,318	△108
無形固定資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
インフラ資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	224,806	154,083	△70,723
土地	-	-	-	純資産	3,991,494	3,997,541	6,047
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	27,237	23,596	△3,641	純資産の部合計	3,991,494	3,997,541	6,047
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-	負債及び純資産の部合計	4,216,300	4,151,624	△64,675
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	4,216,300	4,151,624	△64,675				

Ⅲ 財務構造分析

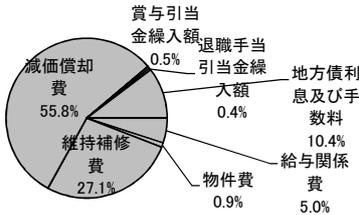
▽人にかかるコストの内訳

	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇用員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
事業従事人数	0.8人			5人	6,805
給与関係費等	6,729千円			76千円	
内、時間外勤務手当	0千円				

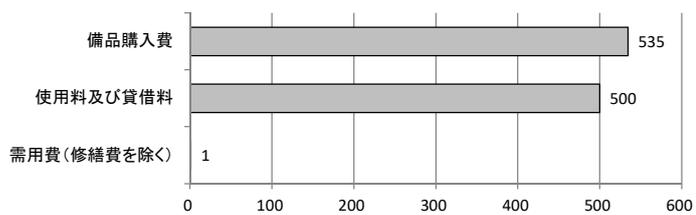
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	吹田市介護老人保健施設(建物・工作物)の減価償却による減(61,035千円)
重要物品	吹田市介護老人保健施設(重要物品)の減価償却による減(3,641千円)
地方債	未償還元金の減(75,071千円)

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市介護老人保健施設
取得年月日	平成4年6月
建物・工作物の取得価額	2,998,094 千円
建物・工作物の減価償却累計額	1,618,569 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

分析指標	年度			差 B-A
	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	
施設維持補修費比率	0.1	0.4	1.0	0.6
施設老朽化比率	49.9	52.0	54.0	2.0
受益者負担比率	-	-	-	-
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	99.7	99.6	99.4	△0.2
経常費用対公共資産比率	3.1	3.3	3.9	0.6

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は56.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものにつきましては、減価償却費64,675千円(55.8%)、支払利息12,002千円(10.4%)、人件費6,805千円(5.9%)、物件費3,200千円(2.8%)、維持補修費31,374千円(27.1%)となっています。維持補修費が増額した主な理由は、屋上防水更新工事、浴槽濾過装置修繕を実施したことによるものです。また物件費の内訳としては、連絡橋上部と給水管の土地家屋借上料の500千円、備品購入費535千円、食糧費1千円となっております。減価償却により資産(建物)が減少しています。老朽化率は前年度より2ポイント進行し、54%となりました。市保有施設全体の老朽化比率(56.2%)と比較すると2.2%下回っています。経常収入の内訳につきましては、寄附金が498千円、その他収入として自動販売機設置に係る行政財産目的外使用料181千円です。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

施設は平成4年(1992年)に建設後、27年が経過し、老朽化が進んでいます。大規模な改修工事のみならず、施設の附帯設備、また備品に関しても経年劣化が進んでおり、計画的な修繕及び備品更新計画を立て、予算の確保を行う必要があります。市保有の施設全体も老朽化が進み、限りある財政状況の中では、維持補修等に関する経費を平準化し、計画的な予算執行を行う必要があります。